

上野原用水案内マップ

～未来～繋ぐ水のみら～

至 丹波山村

ゆずりはらさんにやま
欄原三三山取入口



上野原用水の出発点!!
当時の人は、小菅村から流れてくる鶴川を水源に決めた。

522

小和田サイフォン

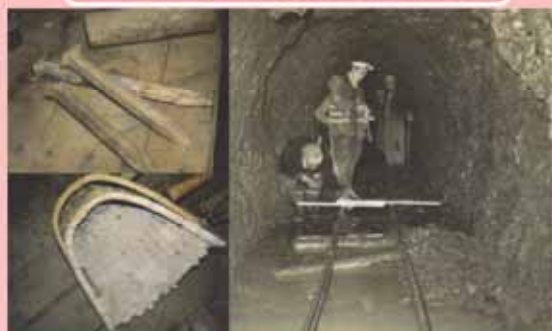
小伏沢水路橋

小学生学習会の様子



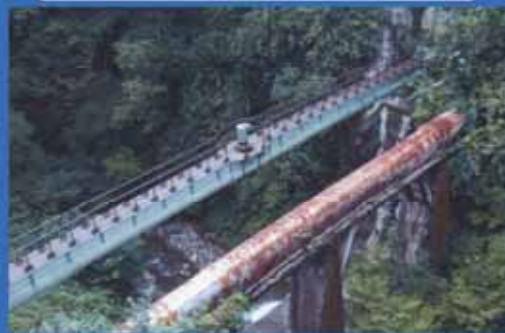
上野原土地改良区は学校と連携し、用水の歴史や機能、地域における役割を教える学習会を実施している。

当時のトンネル工事の様子



当時、土木機械はなくすべて人力による作業だった。
ノミやハンマーで岩を砕いてトンネルを掘り進めた。

黒田沢サイフォン



黒田沢にかかる新旧のサイフォン。
古いサイフォンは、レンガの橋脚で造られている。

上野原用水は恵みの水



安定した農業用水の供給により地域での米作りが可能になった。

上野原で作られた新鮮野菜を
談合坂サービスエリア(上り)に出荷している。



33

鶴川

山風呂水路橋
(山風呂サイフォン)



500m

| | |
|--|-------|
| | 高速道路 |
| | 県道 |
| | 一級河川 |
| | 上野原用水 |

月見が池 弁財天祭りの様子



月見が池は、ため池の役割だけでなく、学校の環境学習やお祭りなど多面的機能を果たしている。

上野原市役所

上野原土地改良区

中央自動車道

至 甲府市

航空写真提供：水土里ネットやまなし（水土里情報システム）

30

やまなし 月見里農業紀行



上野原市

甲府



上野原用水

●ため池百選に選定されている月見が池

人々の生活を支える

上野原用水

山梨県最東端に位置する上野原市は、地域を流れる河川によって階段状に作られた河岸段丘が、生活の基盤になっています。このような取水が難しい地形に、昔の人たちは上野原用水を整備しました。用水は農地を安定的に潤し、米や野菜を栽培することができ、上野原の農業を支えています。また、生活用水としても利用され、重要な役割を担っています。

上野原用水の歴史

上野原市は、昔から水が少ない地域でした。当時は米を作れず、病気が流行り、大火事の発生などで人々は生活に苦しんでいました。

「米作りがしたい…水が欲しい…」

という住民の願いから、上野原用水の歴史が始まります。水源を桐原三三山（つぎはらさんざん）の鶴川に決め、大正5年に着工し、トンネルや水管橋を造る大規模な工事になりましたが、3年後の大正8年に延長約9kmの幹線水路が完成しました。念願の通水の日を迎えると、人々の歓声で溢れ、用水が流れる流域は、水田地帯に生まれ変わりました。

上野原用水 未来に繋げる

地域に用水が流れて96年という月日が経ちました。現在は、上野原土地改良区が用水の維持管理を行っており、活動の功績が認められ、数々の賞を受賞しています。

上野原市の繁栄には、昔の人々の強い郷土愛と知恵の結晶である土地改良事業があったからだと思います。今後も、上野原用水を改良区だけでなく地域全体で守り、未来の子どもたちに伝えていくことを願っています。

(参考資料 上野原土地改良区編 上野原開田史)

ため池百選とは

農業用水を確保するために、水を貯め取水できるよう造成したため池を、未来へと継承するために農林水産省が選定したものです。山梨県では上野原用水から導水した「月見が池」のみが選ばれています。

月見里(やまなし)農業紀行について

山が無い里は月がよく見えることから「月見里」と書いて「やまなし」と読み、山梨という地名の由来の1つとされています。

この月見里農業紀行のページでは、山梨県内の様々な農業用施設(ため池、水路、農道等)の様子を紹介します。



●昭和6年 月見が池施工状況風景